

令和5年度埼玉県・さいたま市
若年性認知症自立支援ネットワーク研修

若年性認知症サポートセンターの 役割と居場所づくりについて

埼玉県・さいたま市若年性認知症サポートセンター
松本 由美子

本日の内容

- 若年性認知症について
- 若年性認知症サポートセンターの役割、業務実績について
- 若年性認知症本人・家族の居場所づくりについて

認知症とは

獲得した複数の認知・精神機能が、意識障害によらないで日常生活や社会生活に支障をきたすほどに持続的に障害された状態

- ・認知症の定義、診断基準としては国際疾病分類第10版（ICD-10）、精神疾患の診断・統計マニュアル第5版（DSM-5）、米国国立老化研究所/アルツハイマー病協会ワークグループ基準（NIA-AA）等があり、それらをまとめたもの
- ・変化しているのは**複数の機能低下と日常生活や社会生活に支障**
- ・認知症と診断されたのち、その原因疾患を見極めることとなる

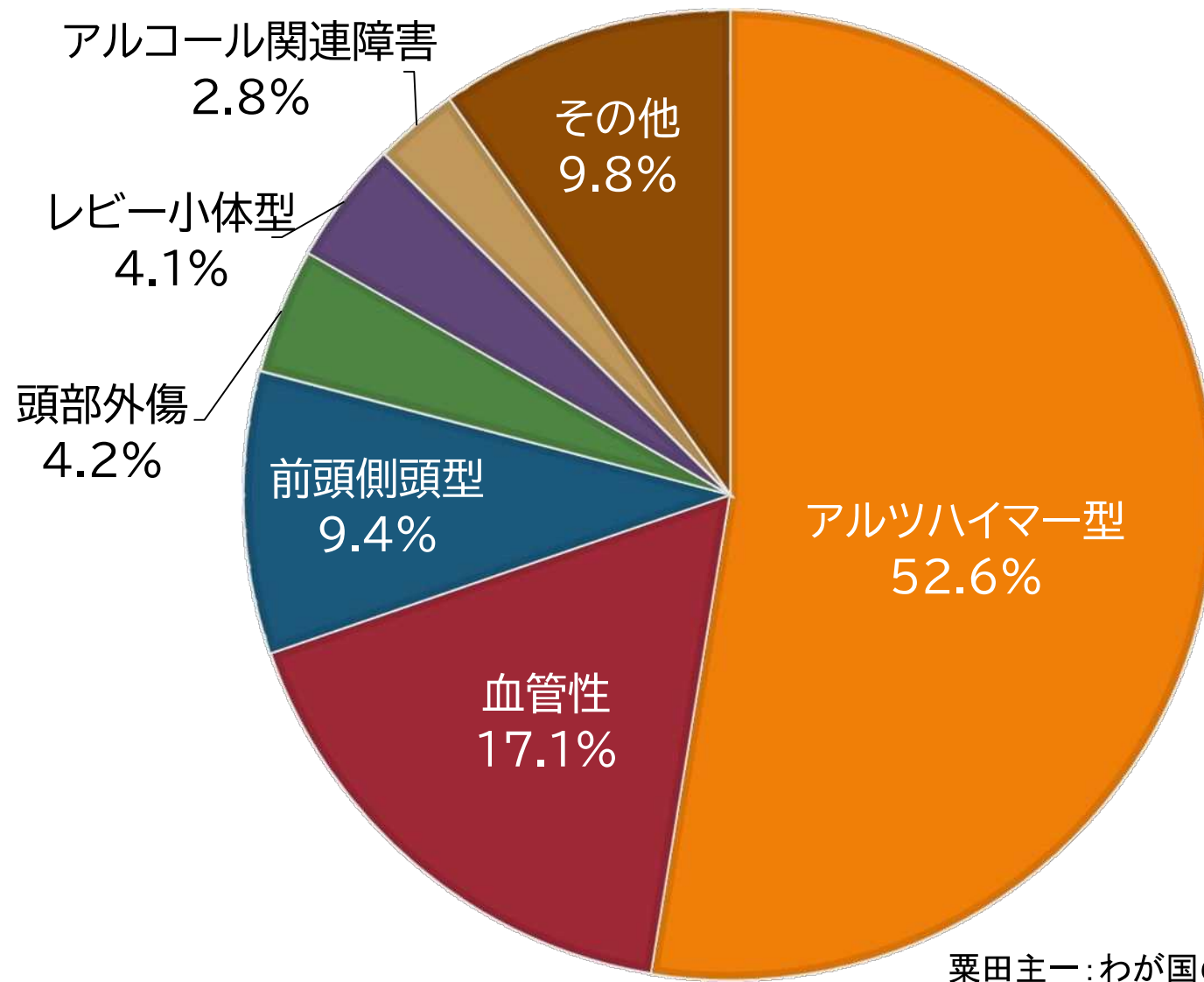
若年性認知症とは

「65歳未満で発症した認知症」

発症年齢で区分した概念であり、若年性認知症という独立した病気ではない

- 18歳から64歳人口における、人口10万人当たりの若年性認知症有病率は**50.9人**
- 全国の若年性認知症の数は**約35,700人** 埼玉県は**約2,200人**
- 最初に症状に気づいた年齢は平均**54.4歳**

若年性認知症の原因疾患別割合



10年前の結果と比べて、アルツハイマー型認知症や前頭側頭型認知症が多くなっている。

その背景には国民の意識の高まりとともに、変性疾患に対する医療機関の診断制度の向上が関係している。

認知症の方が受ける主な検査

- **認知機能検査**（長谷川式、MMSE等）
- **MRI検査**（磁気共鳴画像診断法）
脳の萎縮の程度（脳の形態）が分かる
- **SPECT**（単一光子放射断層撮影）
特殊な放射性医薬品を注射し、脳の血流状態を画像化するため、**脳の萎縮が始まる前から脳機能の低下が発見できる**
- **髄液検査**
画像検査だけでは診断が困難なアルツハイマー病の診断をする際等に実施

若年性認知症の場合MRI検査で確定診断される方は少なく、SPECTや髄液検査まで行いやっと確定診断される方が多い

若年性認知症支援コーディネーターについて

【若年性認知症支援コーディネーターとは】

2015年度の認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に基づいて、各都道府県に若年性認知症の相談窓口が設置され、関係機関の調整役として若年性認知症支援コーディネーターが配置されることとなった

【若年性認知症支援コーディネーターの役割】

- 若年性認知症支援コーディネーターは、若年性認知症の人のニーズにあった**関係機関**や**サービス担当者**との「**調整役**」になることが期待される
- 必要に応じて、職場や福祉サービス事業所等と連携し、就労継続や居場所づくりに働きかけるなど、本人が自分らしい生活を継続できるよう本人の生活に応じた**総合的なコーディネート**を行うことが求められる

若年性認知症サポートセンターの業務

1. 相談窓口（本人・家族・専門職・企業等から）

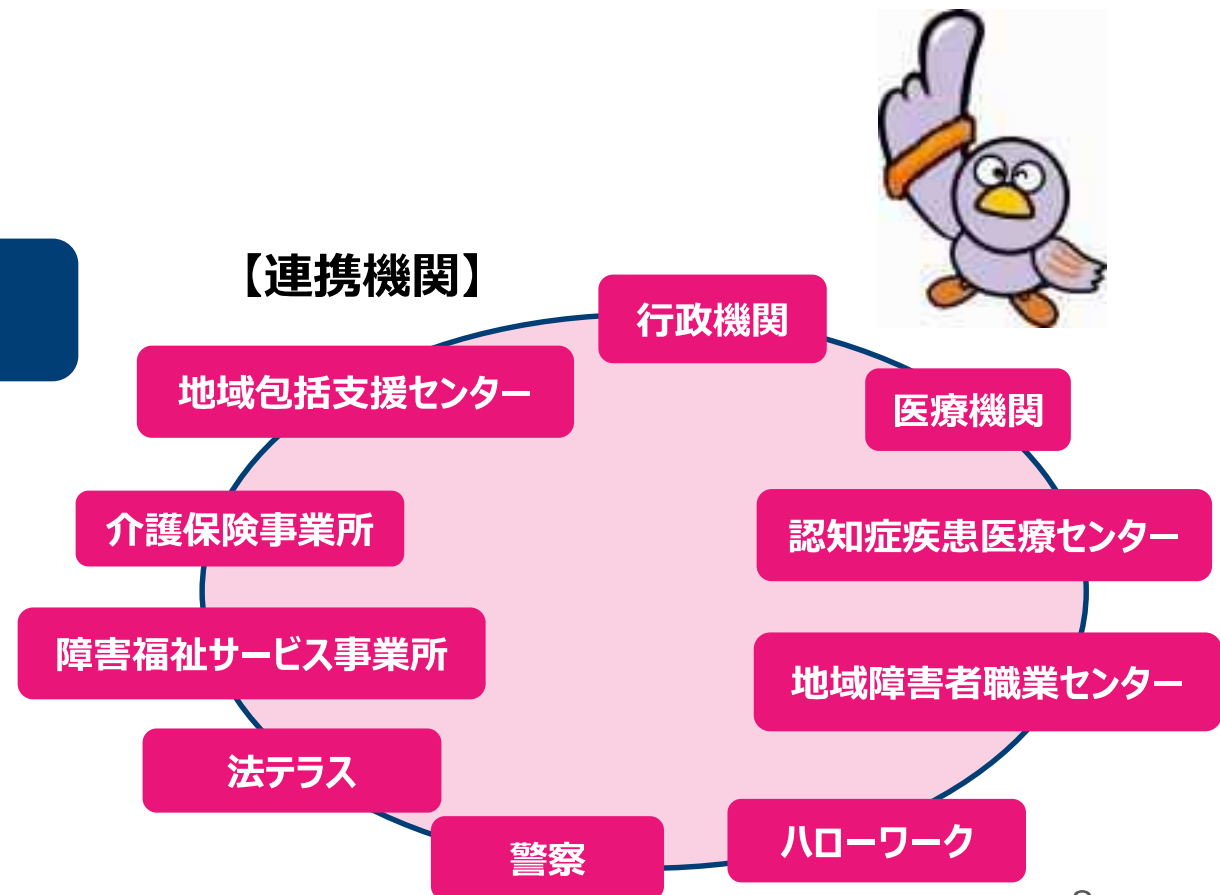
埼玉県では若年性認知症支援コーディネーターを3名配置し、事務所を構え、2020年からは若年性認知症サポートセンターとして活動している

2. 若年性認知症支援連携体制の構築

3. 若年性認知症の人や家族のつどいの開催

4. 企業等への雇用継続理解促進事業

5. 就労等社会参加支援



2022年度 若年性認知症サポートセンターの相談実績

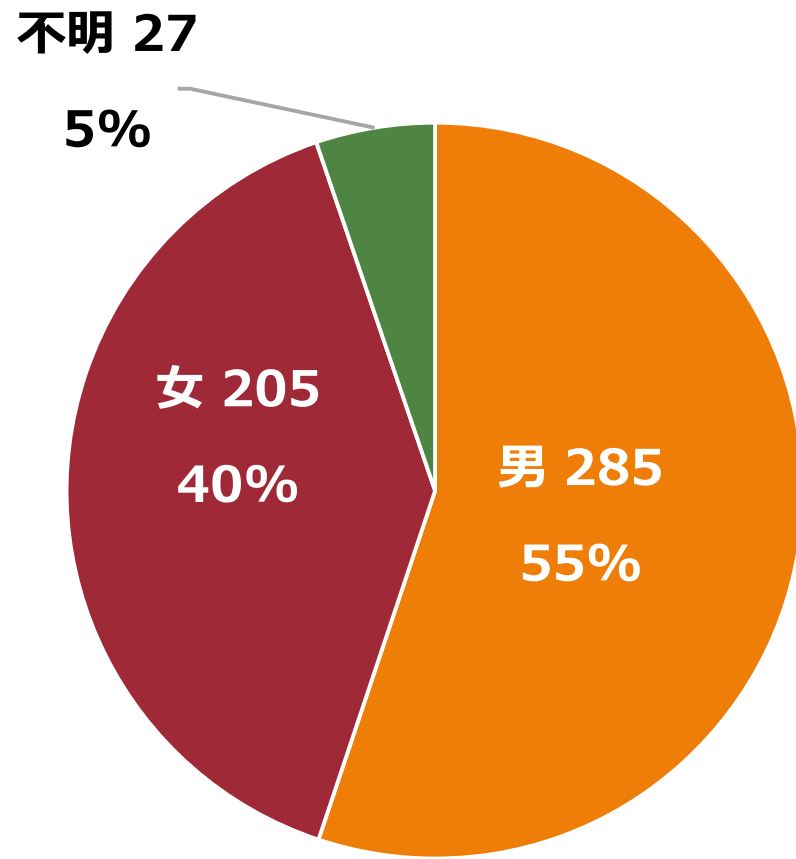
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総合計		
	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	新規	延件数	
本人		18	3	17		28		22	3	21	3	29	1	28	6	21	1	14	2	20		16	2	17	21	251	
家族	9	60	4	71	3	73	4	47	5	80	11	71	6	67	8	60	6	69	4	57	9	53	5	64	74	772	
職場・企業（産業医含）		2		7		8	1	1	1	5		1		1				1		2		1	1	3	3	32	
医療機関	1	2	1	3	2	4		4	1	5		3		1				3				1	1		1	6	27
市町村担当課		2		3		4	1	7				5		4		4		11		10		1		4	1	55	
地域包括支援センター		11		11		9		12		12		9		12	1	10		5		9	1	10	3	15	5	125	
居宅介護支援事業所		3	2	18	2	8		6		11	1	8		5		3		6	2	8		6		3	7	85	
年金事務所・社労士等		3		1		2		1		3		7		1		1		1		1		2		2		25	
障害福祉サービス事業所		1								2		3		3		2				1	1	1		3	1	16	
障害者就労支援関係事業所		8		4		2		4				5		4		4		2				1		1		35	
その他	2	20	1	8		3		10	1	7		8	2	10	2	11		1		7	1	7		8	9	100	
月別合計	12	130	11	143	7	141	6	114	11	146	15	149	9	136	17	116	7	113	8	115	13	99	11	121	127	1,523	

- ◆ 年間延べ相談数は1523件、1か月平均127件
- ◆ 年間新規相談数は127件、1か月平均11件
- ◆ 家族からの相談が最も多く、次に本人、地域包括支援センターと続く
- ◆ 医療機関からの相談と企業からの相談が同じくらいとなっている

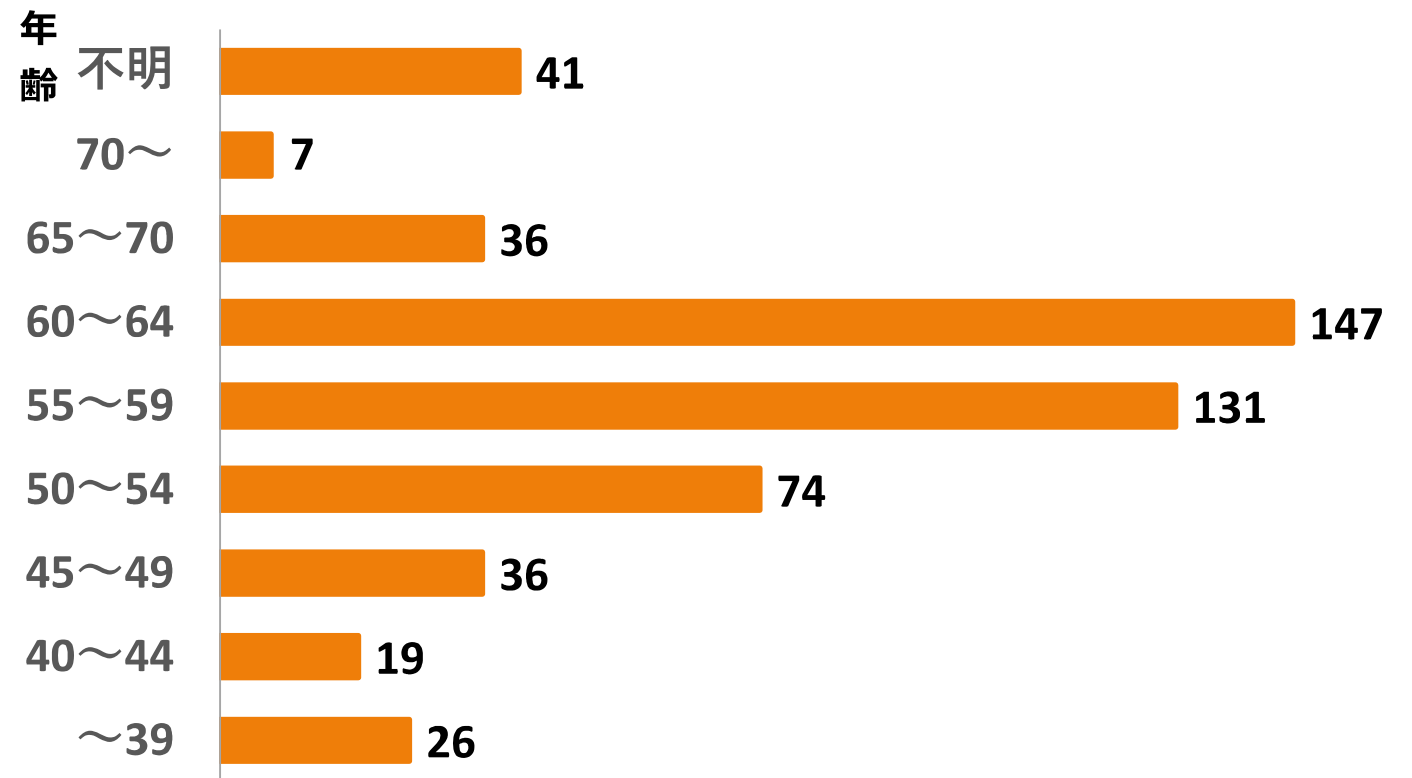
新規相談者の状況 ①

2019年4月～2023年3月までの新規相談：517件

男女比

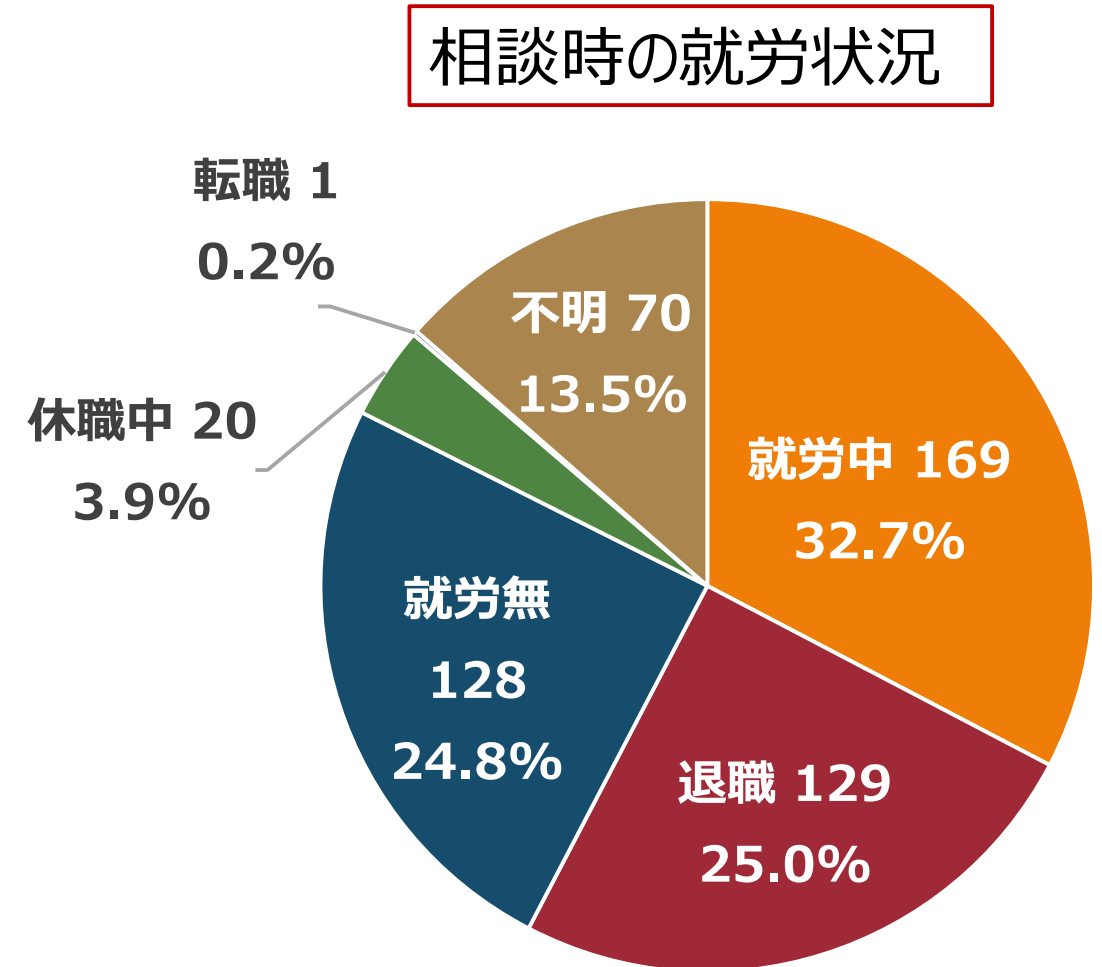
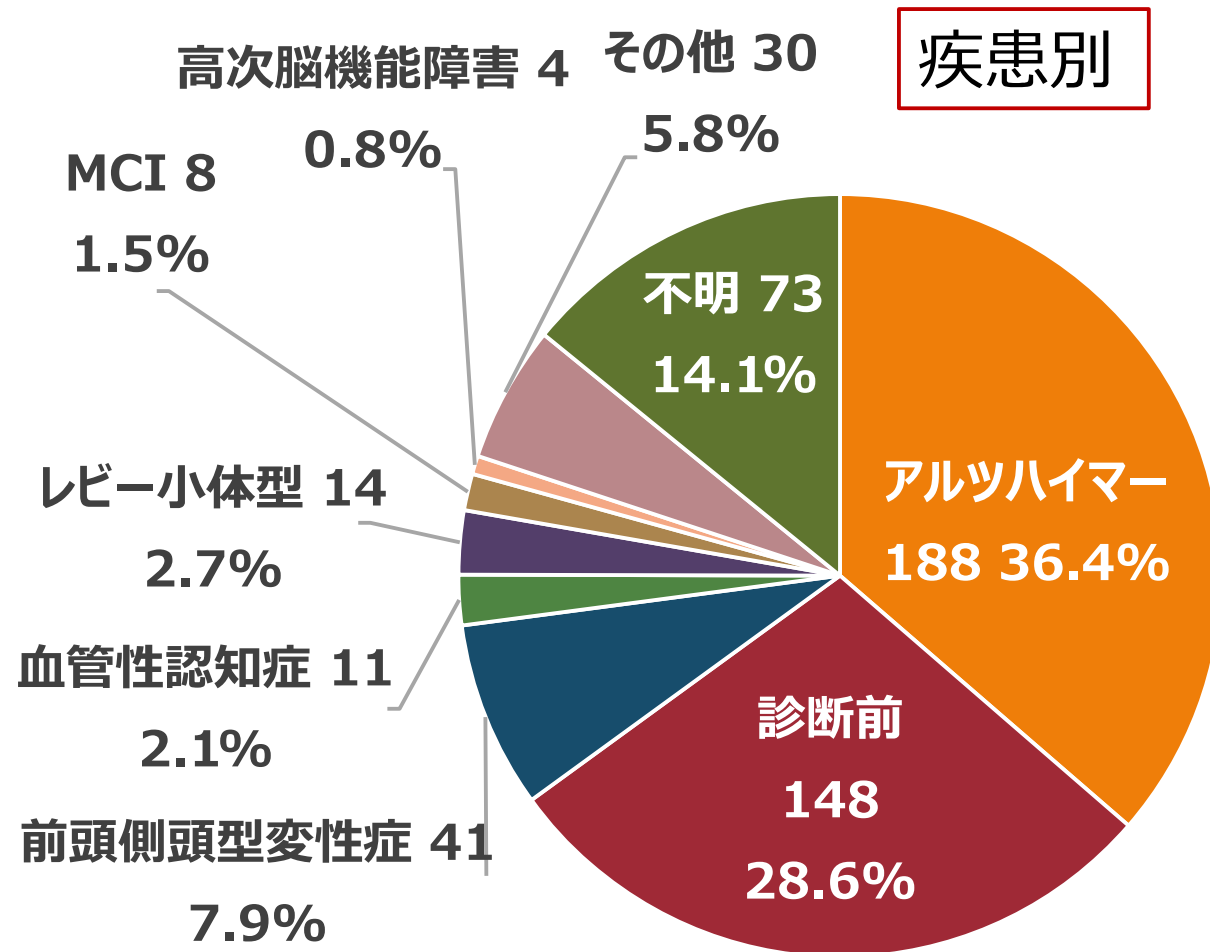


年齢層別人数



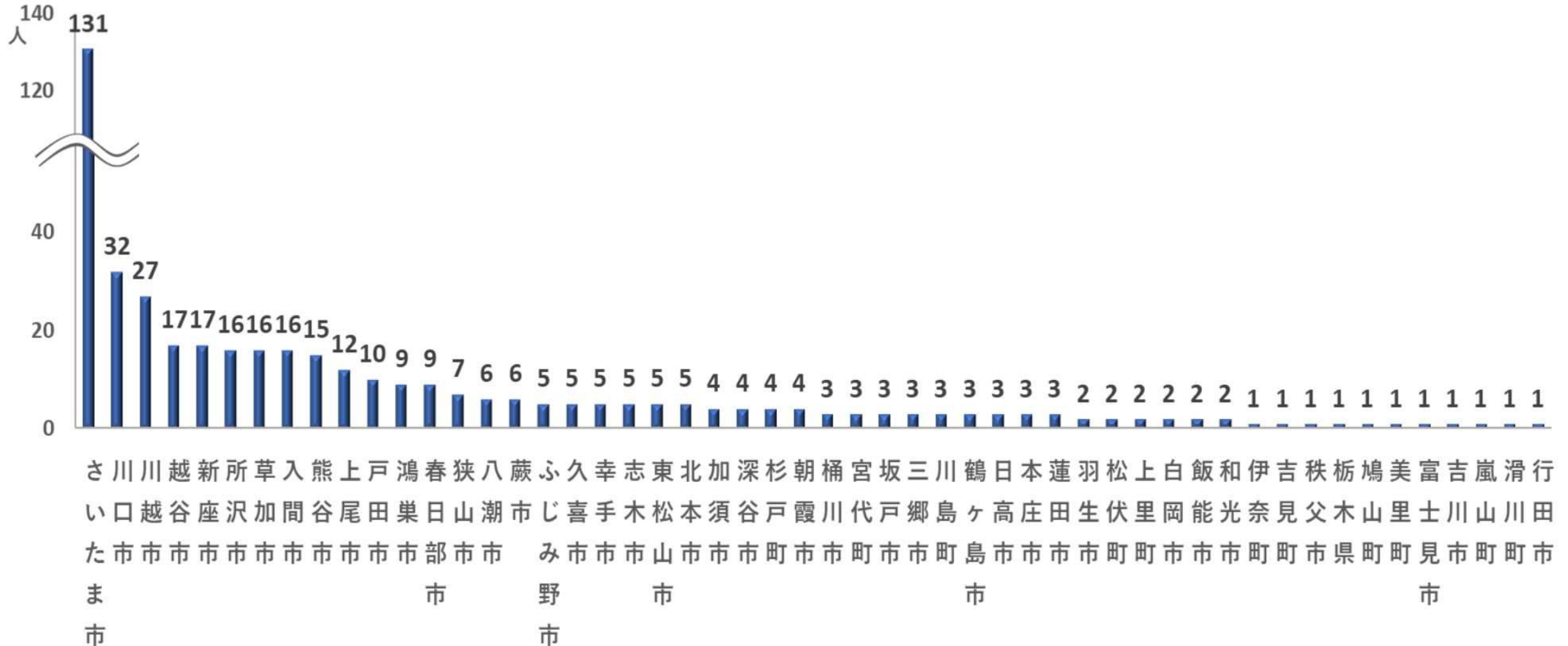
新規相談者の状況 ②

2019年4月～2023年3月までの新規相談：517件



新規相談者の状況 ③

2019年4月～2023年3月までの新規相談：517件のうち居住地が確認できた442件の内訳



若年性認知症の社会的な課題

公的支援の課題

- ・専用の相談窓口が市町村にない
- ・利用可能な医療、介護、障害福祉、就労などの情報が得にくい

医療支援の課題

- ・専門医療機関の情報が少ない
- ・診断後のフォローがなく相談機関へ繋がらない

介護・障害支援の課題

- ・事業所は対応のノウハウの蓄積が無い
- ・利用者は受け入れ可能な事業所の情報が無い

経済的支援の課題

- ・経済的困窮・就学中の子どもの教育費や家のローン
- ・経済保障など既存の制度を活用できていない

社会的支援の課題

- ・進行性疾患であるため就労支援が困難であり、退職後の社会的な居場所もない
- ・職場で気づかれにくく、就労継続に向けた環境整備等も不十分

若年性認知症の方の支援の流れ

症状の進行

企業等での就労

(企業の理解・配置転換・できる仕事の見極め・障害者枠での就労含む)

★ハローワーク

障害者就労・生活支援センター等との連携

★精神障害者福祉手帳の申請

障害福祉サービス・福祉的就労
(就労移行支援・就労継続支援A型・B型等)

医療サービスによる支援
(デイケア等)

障害福祉サービスによる支援
(移動支援等)

介護保険サービスによる支援
(デイサービス・小規模多機能等)

症状が進行し、働けなくなっても自分の居場所があり、社会とのつながりを持ち続けられる

居場所づくり・社会参加支援

(認知症カフェ、本人交流会、当事者・家族の会・ボランティア活動・趣味活動の継続・講演活動等)

若年性認知症と診断された直後の本人の思い

【丹野智文さんの著書より】

診断後は「認知症＝終わり」だと思い、不安や恐怖から夜泣いてばかりいました。それが元気な当事者やサポートしてくれる人たちとの出会いにより、少しずつですが不安が解消されてきたのです。

私は私よりも先に不安を乗り越えた元気で明るい認知症当事者との出会いにより、10年たっても元気でいられることを知りました。

「丹野智文笑顔で生きる」文藝春秋2017年

認知症と診断されたらその時から私たちの暮らしは、今までの生活とまるっきり変わってしまいます。でもそれは、認知症の症状のせいではありません。診断されたからと言って次の日から急に「物忘れ」が増えるわけではありません。周りの人たちの意識が大きく変わってしまうのです。

「認知症の私から見える社会」講談社新書2021年



50代独身男性が自信を取り戻した事例

- X てんかん発作で通院している主治医から若年性アルツハイマー型認知症と診断され、本人が市の障害福祉窓口相談し、若年性認知症支援コーディネーターを紹介された自宅に訪問し本人より、障害年金だけでは生活費が足りず、少しでも働いてお金を稼ぎたい同じ病気の人と会ったことがないので、会ってみたいとの希望を確認
- X+ 1月 福祉的就労に向け、市の障害者就労支援センターに相談
リンカフェに初参加、その後毎週参加するようになる
- X+ 2月 B型事業所への見学、障害手帳の申請
隣の市で開催している若年性認知症カフェに参加開始
- X+ 4月 B型事業所への通所開始 精神障害者手帳 3級決定
リンカフェのスタッフとして関わることになる
- X+ 5月 コーディネーターがB型事業所での様子を見学
- X+ 8月 大学で講義を担当する予定で現在準備中



50代女性 夫がサービス利用を拒否し続ける事例

- X 字や〇も書けなくなったため受診し若年性アルツハイマー型認知症と診断。主治医から若年性認知症サポートセンターに相談するよう言われた。
- X+21月 本人と夫がサポートセンターに来所相談。診断後コロナ禍でもあり、家族（夫・長男・長女）が交代で本人と一緒にいるようにして過ごしていた。今後は社会的な活動ができるようにしたいとのことであった。利用できる社会資源等も全く手続きをしていなかった。リンクフェに夫と一緒に参加。参加時は楽しそうにしていたが、その後は参加できず。
- X+25月 夫が自立支援医療・障害者手帳・障害年金の手続きに関して来所相談。診断書には長谷川式5点と記載あり。介護保険は要介護2。夫は実家から認知症の父と母を呼び寄せていた。ケアマネを紹介しサービス利用を促すが拒否。担当包括に困難事例と報告。
- X+30月 娘から相談。既に家族だけでの介護は限界でサービス利用を促しているができないでいる。母の介護で自分の人生を台無しにしたくないと。その後子世代のつどいに参加。担当包括と娘、コーディネーターで今後について話し合い。
- X+39月 夫、娘より相談。子ども二人が家を出て、夫の両親も介護が嫌になり実家に帰ったと。包括と相談し3人目のケアマネを夫へ紹介。区役所へ虐待の可能性があると報告。

若年性認知症の家族のおもい



周囲の人には言えず、本人とも認知症について話ができない
誰にも話が出来ず、一人で抱えたり、目を背けたり

認知症の人のペースに振り回されたり、介護者の思い通りにしようとしてうまくいかない
眠れなくなったり、本人を避けたりすることもある

若年性認知症の家族の場合、この変化のハードルが高い！

失敗を繰り返し、やっと冷静に現状を見ることができるようになる
他者に助けを求めることもでき、肩の力を抜いた介護ができるようになる

気持ちの余裕ができ、日常生活において様々な工夫をして本人をケアすることができるようになる
自分の経験を他者に伝えたり、記録したりする人もいる

家族を支援する視点

● 家族の生活の質・人生の質（QOL）に対する支援

（家族の人生に焦点をあてた支援）

- ・ケアの支えてであると同時に一人の人間である
- ・ケアと他の社会活動（仕事、子育てなど）との両立
- ・ケアを担うことでの社会的不利益の払拭

● 家族まるごと支援

- ・ケアを受ける人と共に、家族も支援の対象として関わる
- ・家族には子どもも含まれる

● 精神的なケア

- ・気になる家族には定期的に連絡をとる
- ・家族交流会や研修会の紹介

家族支援の取り組み ①

令和5年度 若年性認知症 家族交流会 たんぽぽ

認知症専門医が参加予定です

日程 奇数月：第2土曜日
5/13 7/8 9/9 11/11 R6年 1/13 3/9

時間 13:30～15:30 (受付13:00～)

場所 若年性認知症サポートセンター
さいたま市浦和区常盤3-12-17日建プリムローズ第3・1F

対象 若年性認知症の方を在宅で介護している家族

申込方法 希望日の3日前までに下記までご連絡をお願いします(定員になり次第締め切り)

隣りには決して書かない事を皆さんで分かち合いませんか！
これから先どうなるの？
こんな時どうすればいいの？
ストレスがー

申込先 若年性認知症サポートセンター (月～金：9時～16時)
電話：048-814-1212 FAX：048-814-1211
メール：jakunen2017@sage.ocn.ne.jp

J R 京浜東北線 北浦和駅西口 徒歩6分

令和5年度 若年性認知症 家族交流会 ひまわり

同じ境遇の方同士でつぶやいてみませんか

日程 偶数月・第2金曜日 (8月は第3金曜)
4/14 6/9 8/18 10/13 12/8 R6年 2/9

時間 13:30～15:30 (受付13:15～)

場所 若年性認知症サポートセンター
さいたま市浦和区常盤3-12-17日建プリムローズ第3・1F

対象 若年性認知症の方を介護している又はしていたご家族の方 (入院・入所中の方や看取り後の方の参加も可能です)
飲み物は各自ご用意ください。

問合せ先 若年性認知症サポートセンター
(月～金：9時～16時)
電話：048-814-1212 FAX：048-814-1211
メール：jakunen2017@sage.ocn.ne.jp

主催 若年性認知症家族の会 ひまわり
※若年性認知症家族有志の集まりです。

J R 京浜東北線 北浦和駅西口 徒歩6分

同じ境遇にある介護者が、日頃の悩みや苦勞を語り合うことができ、横のつながりができる

介護の工夫や社会資源の利用等について情報交換することができる

情報交換することで認知症をより理解することができる

家族支援の取り組み ②

若年性認知症 家族の夜会

同じ病気の家族同士
思いや経験を語り合いませんか

飲食は持ち込み制となります
アルコール類も持ち込み可です
各自ご用意をお願いします
途中参加・途中退席は自由です

日程 偶数月 第2火曜日
4/11 6/13 8/8 10/10
12/12 R6年2/13

時間 18:30~20:30

場所 若年性認知症サポートセンター
さいたま市浦和区常盤3-12-17
日建プリムローズ第3 1F

対象 若年性認知症の家族の方

埼玉県・さいたま市 若年性認知症サポートセンター
お申込み・お問い合わせ 電話：048-814-1212
メール： jakunen2017@sage.ocn.ne.jp

若年性認知症の親を持つ 子ども世代のつどい

令和5年度

オンライン
で開催

一人で悩まず 話してみませんか

日程 R5年 4/11・6/13・8/8・10/10・12/12
R6年 2/13 すべて火曜

時間 19時30分 ~ 21時00分

対象 親が若年性認知症と診断されている方

方法 Zoomミーティングに参加する
ミーティングID: 974 0480 0393
パスコード: 112449

ZoomミーティングのURL

みんな何を悩んでる？ 同世代の人と出会うって体験や思
仕事はどうしてる？ いを共有してみませんか？
ストレス解消法は？

オンライン（Zoom）形式なので、ご自宅から自由に参加できます

お申込み
お問い合わせ
電話：048-814-1212
Mail: jakunen2017@sage.ocn.ne.jp
主催：埼玉県・さいたま市
若年性認知症サポートセンター

前頭側頭型認知症 家族交流会

日程 R5年 5/13[±] 7/8[±] 9/9[±] 11/11[±]
R6年 1/13[±] 3/9[±]

時間 10時 ~ 12時

場所 若年性認知症サポートセンター
さいたま市浦和区常盤3-12-17
日建プリムローズ第3・1F

- ・前頭側頭型認知症の独特の症状に戸惑う家族の思いを分かち合ってみませんか。
- ・こんな時どうしてる…?!対応には工夫が必要です。情報交換してみませんか。
- ・難病指定の手続きについて経験者に聞いてみませんか。

お申込み・お問い合わせ先

埼玉県・さいたま市 若年性認知症サポートセンター
Tel. 048-814-1212 | Mail. jakunen2017@sage.ocn.ne.jp

個別支援をする中で本人の居場所の必要性を痛感

本人からは

仕事でミスをして職場での居場所がなくなった

自分で自由に行きたい場所に行けなくなった

失敗するかもしれないと思うと新しいことに挑戦できないし、やる気も出ない

失敗を恐れて気が気でなくて何をしても楽しめない

家族からは

仕事を辞めたらずっと家にいればよい

火を出しても困るので、家事は家族が代わりにしている

失敗してショックを受けて落ち込むのを見たくない

本人が行きたがらないし、家族も仕事があって一緒に行けない

専門職からは

若年性認知症の方のサービスがない

高齢者の方ばかりの居場所だと行きたがらないだろう

若年性認知症初期の方の相談経験がなく、どう支援したらよいか分からない

- ・ 同じ思いでいる若年性認知症の本人同士が出会える場
- ・ 本人が安心して楽しめ、家族も安心して送り出せる場
- ・ 専門職が初期の若年性認知症の本人に出会える場



本人が集まる若年性認知症の人の居場所をつくりたい!!

居場所ってどんなところをさすの？

社会的居場所

自分が他人によって必要とされている場所であり、そこでは自分の資質や能力を社会的に発揮することができる場所

人間的居場所

自分であることをとり戻すことのできる場所であり、そこにいると安らぎを覚えたり、ほっとすることのできる場所

※必ずしもいつも決まった場所(スペース)が必要なわけではなく、そこに集まる人との関係性や繋がりが大切なのは

皆さんの居場所はいくつありますか？

○社会とのつながりの中で
(職場や地域のつながりの中で)

○家族の中で
(自宅や実家、子どもの家等)

○昔からのつながりの中で
(趣味活動、ママ友、同級生、幼なじみ等)

大人になれば多くの方が複数の居場所を持ち、その場での役割を担い本人らしさの一部を形成している

病気になってもこれまでの居場所がそのまま継続し、心地よい居場所であれば、あえて新しい居場所を探す必要はないでしょう
しかし、多くの若年性認知症の方はそれまでの居場所を失ってしまっている

リンカフェをオープン

若年性認知症の方やその家族、支援者が自由に集える場を作ります。

リンカネーションカフェ (通称リンカフェ) オープンします♡



6月6日から 毎週木曜日



予約は不要ですが、お盆と年末年始等はお休みすることがありますので、事前にご確認ください。

昼食は持参してください!! 飲み物はこちらで準備いたします。

10:00~11:30 までは卓球台を設置します。体を動かして日頃のストレスを発散するもよし、自分が好きな楽器を持参し演奏するもよし、フラメンコや編み物をするもよし!! 自分の好きなことを自由にできる時間と場所にしたいなと思っています。卓球のラケット等はありますが、その他必要物品はご持参ください。



11:30~14:00 までは各自持参した昼食を食べながらおしゃべりタイムになります。若年性認知症の本人が、本人の立場で相談に応じることもできます。専門職に相談したい方ももちろん大丈夫です。

気になる方は是非一度遊びに来てください。



お問い合わせ：若年性認知症支援コーディネーター 担当 松本
住所：さいたま市浦和区常盤3-12-17 日建プリムローズ常盤第3 1F
電話：048-814-1212 FAX：048-814-1211
メールアドレス：jakunen2017@sage.ocn.jp

毎週木曜日 午前の部10:00~12:00
午後の部13:00~15:00

若年性認知症の方が集える場 リンカフェ

若年性認知症の方とその家族、支援をしている専門職の方等が参加できます



若年性認知症の当事者がお
待ちしています。

若年性認知症支援コーディ
ネーターが様々な相談に対
応します。

参加希望の方はご連絡下さい ☎ 048-814-1212

主催 若年性認知症サポートセンター
(埼玉県、さいたま市委託事業)

場所 さいたま市浦和区常盤3-12-17 日建プリムローズ常盤第3 1F
京浜東北線 北浦和駅 西口 徒歩7分

E-mail jakunen2017@sage.ocn.ne.jp

2019年6月に若年性認知症の本人
がスタッフとなり、リンカフェをオープン

【目的】

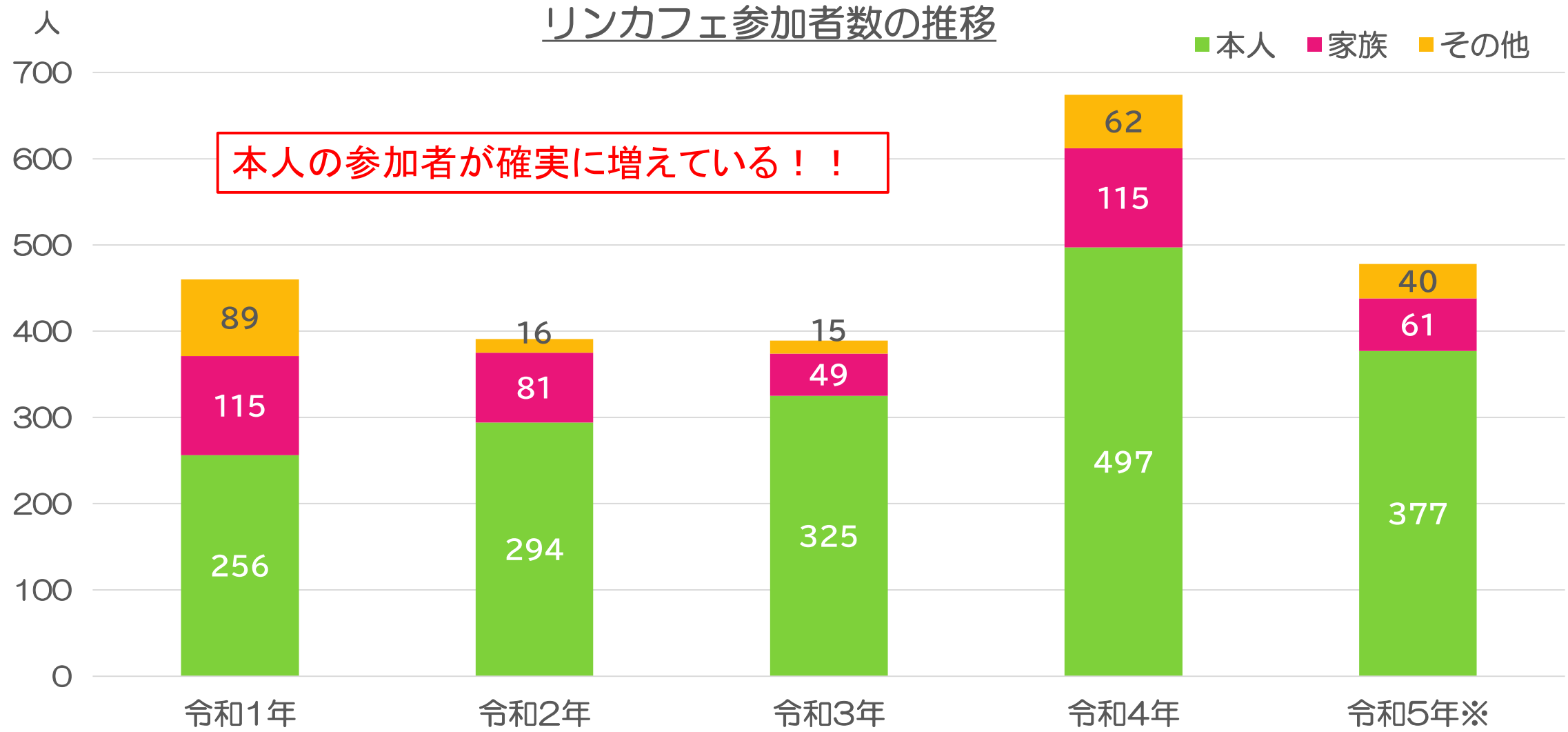
- 若年性認知症の本人の活躍の場所
- 本人同士が出会える場所
- 本人が楽しめる場所
- 本人、家族がホッとできる場所

【参加者】

- 若年性認知症の本人
- 家族・支援者等



リンカフェの参加者実績



カフェ参加者の声

とにかく楽しい場所
主治医に紹介されて
来てみたら、みんなの
笑い声にびっくり

絶対に忘れてはいけな
いところ、絶対に来たい
ところ

みんなで卓球とカラオ
ケをするのが大好き

自然体でいられるところ
失敗しても大丈夫なところ

仲間と会える

雰囲気アットホーム
みんなが優しい、こんな
ところ初めて
温かく迎えてくれた

色々なことを先輩から
聞ける
元気をもらえる

出来ることがあればみんなと
楽しくやりたい
またやってみようと思った

**身近なところにもこんなと
ころがあったらいいな**

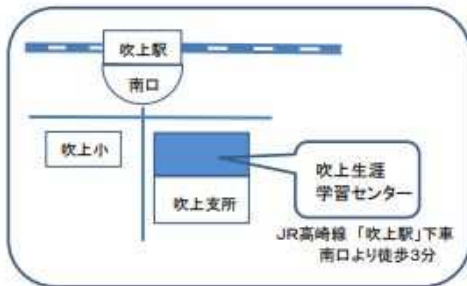
若年性認知症カフェを身近な場所にもっと

若年性認知症 本人つといて フルーメンの会

このつどいは、若年性認知症の方、認知症ではないかと心配されている方が集い、語らう場です。
『認知症』は、決して何もわからなくなる、できなくなるというばかりの病ではありません。
生活の中で工夫をしたり、楽しみをみつけて、活き活きと暮らす仲間がいます。
悩み、不安、希望を含め、いろいろな話を一緒にしてみませんか。
参加は無料です。

令和5年度日程

開催日時	開催時間	会場
令和5年 5月11日(木)	10:00~11:30	吹上生涯学習センター 研修室1
7月13日(木)		
9月14日(木)		
11月9日(木)		
令和6年 1月11日(木)		
3月14日(木)		



【問い合わせ先・参加申し込み先】
鴻巣市認知症地域支援推進員
(担当: 石井・坂内ばんない)
☎048-596-2283

埼玉県若年性認知症
サポートセンター
☎048-814-1212

毎月第1土曜日 14:00~16:00

若年性認知症の方が集える場



がーやカフェ

若年性認知症の方とその家族、専門職の方、どなたでも自由に参加できます
密を避けるため、事前申し込み制とし定員を12名としています



申込方法 完全予約制 1週間前までにお電話又はメールでお申し込みください
※開催時間中 入退出は自由になります

費用 お一人様につきワンドリンクのご注文をお願いします(有料:350円~)

場所 「コミュニティ café そらはな」

埼玉県越谷市花田7-10-3 キーウエスト1F ※令和4年9月に移転しました
☎:048-940-5097

東武スカイツリーライン「越谷駅」東口
東武スカイツリーライン「新越谷駅」/JR武蔵野線「南越谷駅」
より、バスにて「花田苑入口」下車 (100m)

申込先 越谷市 地域包括ケア課
☎: 048-963-9163

または

若年性認知症サポートセンター
☎: 048-814-1212
メール:jakunen2017@sage.ocn.ne.jp



毎月第4火曜日 14:00 ~ 16:00

若年性認知症の方が集える場

ハルカフェ

若年性認知症の方とその家族、支援をしている方が参加できます。

事前に参加申し込みをお願いしています



【会場】

東部地域振興ふれあい拠点施設【ふれあいキューブ】4階

市民活動センター ぽぽら春日部

埼玉県春日部市南1丁目1-7

東武スカイツリーライン・アーバンパークライン 「春日部駅」西口徒歩5分

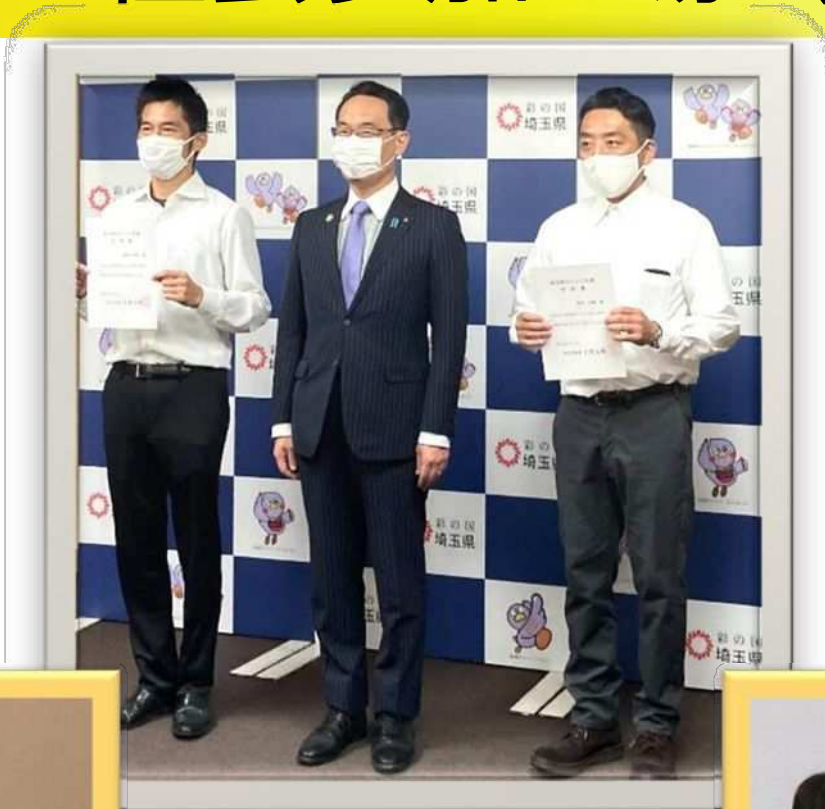
【申込・お問合せ先】

若年性認知症サポートセンター
☎: 048-814-1212
✉: jakunen2017@sage.ocn.ne.jp
春日部市第5地域包括支援センター
☎: 048-734-7631
春日部市役所 介護保険課 地域支援担当
☎: 048-736-1111



居場所：新しい社会参加の場（機会）をつくる

【埼玉県オレンジ大使任命式】



【講演会でオカリナを披露】



【看護大学での授業】



「誰かの役に立ちたい」のおもいも大切に

イオンアグリ創造株式会社 久喜農場との協同企画
社員が若年性認知症となり今後の対応を相談して下さったことをきっかけに!!

トマトの収穫が終わったビニールハウスの片付け



トマトの収穫



本人・家族・支援者総勢27名でお手伝い

若年性認知症の方の支援には本人・家族の声をよく聞いて



若年性認知症サポートセンターでは、地域の専門職の方々と連携して若年性認知症の方の支援、居場所づくりに取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

